

今月の断酒表彰該当者は
おられません。

断酒に思う 137

吹田支部・H M

断酒会に入会するきっかけとなった事を思い出しながら書いて行きます。

自分がお酒で問題があるとは全く思っていませんでした。妻からは飲酒がきっかけでケガをしたりしたこともあり、何度もお酒を飲むことを咎められたりしていました。日頃のストレスがあり、唯一の楽しみである飲酒を取り上げられてしまう事が嫌で仕方ありませんでした。

表面上はお酒を飲む事を我慢して家では飲んでいませんでした。お酒の事で何か言われる事が嫌だったので、隠れて飲んでいる日々が続いていました。

そんなある日、資格の講習会を受けている時に、LINE が入り見てみると、焼酎の飲みかけの瓶の写真が妻から送られてきました。

妻はそのとき、私はお酒を飲んでいないと思っていましたが、約束を破られた事を問い詰める形でLINEを送ってきたのだと思います。

それを見て私はとても怒りました。家に帰り大きな声で口論となりました。私は隠れてお酒を飲んでいる事は一切悪いと思っていませんでした。感情もコントロールできなくなり、妻の手を強くつかみ、ケガもさせてしまいました。その時、私は表面上は反省している気持ちでした。

その後、心療内科に私は受診しているのですが、妻も付き添い、先生にお酒の事で夫に問題があると申し

出しアルコール依存症のチェックシートをし、8~9 当該項目があり、先生からあなたはアルコール依存症ですと告げられて、初めて自分に問題があるのだと自覚しました。



それまで、妻は何度も問題があると言っていたが私は妻の意見は聞き入れる事はできませんでした。

その後断酒会を紹介していただき、門をたたくことになりました。

家族の方の体験談を聞き、妻も同じ気持ちだったのでは……と思いが苦しくなりました。いくら反省しても足りる事は無いと思います。

断酒を続ける事でしか信頼回復できないと信じ1日断酒を続けて行きます。

断酒会規範

十 断酒会は政治、宗教、商業活動に利用されない。

断酒会は、例会に於ては体験談に終始するという原則を持っているが、組織の運営を討議する理事会、代議員会等では、何でも自由に討論することができる。ただし、政党、宗派の問題だけは例外である。

断酒会にはあらゆる政治思想、信仰を持つ人が入会している。政治思想、信仰は、信奉する人にとっては絶対的ともいえるものであり、そうした議論の中で起こる確執は断酒会員の融和、一体性を損なうだけでなく、将来にしこりを残すからである。

また、そうした議論の中でもし意見統一があった場合は、断酒会は政治、宗教に利用される恐れがあり、「断酒会は人間愛に充ちた純粋な奉仕団体である」という、基本理念を捨てることにもなるのである。

確かに断酒会は、政治的に動くことはある。地方行政機関に様々な要請をし、政治家に協力を求める。しかしそれは、地域の酒害者を救済するためのものであり、酒害啓発活動をより効果的にするためである。つまり、断酒会活動の一環として行っているものである。また、協力を要請する政治家は酒害問題に理解を示す人に限られており、かつ党派を超えたものである。

断酒会は政治的に動いても、政治的に利用されない組織である。選挙等には一切関与しない。また、宗教団体の協力があつたとしても、断酒会を布教の場にはさせない。酒害問題は社会全体の問題であり、われわれの活動に協力することは彼らの良識であり、見返りを求めないはずである。

断酒会は財源が乏しいので、活動資金を得るために出版や商品の販売を組織として行うことがある。これは止むを得ぬ手段であるので許される。ただし、酒害問題に直接、間接的に関係のあるものの販売が常識である。

会員個人、もしくは外部の者の利益のために、断酒会の中での商行為は許されない。断酒会の純粹さを侵すだけでなく、会員同士の人間関係の悪化につながるからである。



みんなの広場

「改造でなく、革命である」

前・和歌山断酒道場長（故）児玉正孝先生訓話集

アル中からの脱出は、人間失格の改造でなく、更に一歩つき込んだ革命でなくてはなりません。改造であれば今までの自分を土台にして、善悪を入れ替えるだけで済みましようが、人間復活を目指す以上は、こんな生易しいことでは到底おっつきません。今までの自分を一度解体して新しい自分を作り出す覚悟が必要なのです。これが革命です。

酒だけのことではありません。断酒だけのことであれば一生入院しておればよいのです。社会復帰する以上は単に酒をやめるだけでなく、人間らしい人間の生き方に徹し切ってこそ酒をやめた価値があるのだと思います。これまでの悪業は確かに酒が原因であつたかも知れませんが、しかし、これを行つたのは自分自身であることを十分に認識して頂きたいのです。断酒誓約にもあります様に「酒に罪なく、罪は飲んだ私にあります」ここが最も重要なところではないかと思うのです。

その自分自身を再起さすのですから、一からの出発

でなく、無からの建て直しでなくては真の新生にはなりません。過去の自分の悪業を改めて取りあげてみることは、非常に辛いことかも知れませんが、この傷口を絆創膏を貼ることで誤魔化していたのでは傷は更に深部に達し、遂には人間失格という大事に至る可能性が十分にあるのです。そんな姑息なものではなく、この際に思い切って傷口にメスを入れ傷の隅々で洗い浄める大手術がさしずめ革命ということになります。いま一つ大切なことは、大手術の後は傷口が自然にふさがるまで焦ったり、無理をすれば傷口がさけて、そこからバイキンが入るかも知れませんが、傷口が完全に塞がって大地にしっかり足をフン張って歩けるようになるまでは、ただ忍耐することです。この忍耐が、やがて再起した新生体の血となり肉となることを信じて明るく、そして豊かな心で日々を送って頂きたいと思うのです。

お知らせ

●茨木市断酒会一日研修会

6月11日（日）10：00～16：00

大池コミュニティセンター

参加費：1.500円 申込み〆：終了

●第35回泉州断酒連合会一日研修会

7月2日（日）10：00～16：00

和泉市立人権文化センター

参加費：1.500円 申込み〆：6/18

●神戸市断酒会虹の会発足20周年記念例会

7月2日（日）12：00～16：00

神戸市西区文化センターなでしこホール

参加費：無料 申込み〆：6/28

●第50回近畿ブロック（奈良）大会

8月6日（日）10：00～16：00

天理市民会館やまのべホール

参加費：1.000円 申込み〆：6/30

●北摂断酒連合会一日研修会

8月13日（日）12：30～16：00

摂津市コミュニティプラザ

参加費：無料

